

東かがわ市の英語教育の課題

① 話せる英語、使える英語に向けて

話せる英語と学校英語は違う。英検は単語を覚える。話す英語は簡単だが、聞こえるはずの英語が聞こえない。単語や文法、高校の英語でなくてよい。

今は、何でもいいから早く言葉を出すことが、正しく話すより大切な時代になっている。

☆クイックレスポンス。☆間違ってもいい。といった、環境をつくることが大切である。

② 教える側のレベルアップについて

教える側も、間違ってもいい。

教える側が、英語を簡単だと思わなくてはいけない。

教える側の先生の問題を整える。(学校で英語を教えてくれる役を引き受けてくれただけでありがたいと感謝する)

コミュニケーションを 100%で考えると、55%が視覚、38%が声(聴覚)、言葉(言語)は 7%だから、教える側が、心配せず英語教育に取り組むことが、市の PR につながる。そこで教える側が、グローバルなジェスチャーを身に着けることが重要と考える。

世界は、スケールエコノミーから、スピードエコノミーの時代になっている。グローバルイングリッシュや、ワールドイングリッシュといったことに、積極的に取り組むことが、東かがわ市の PR につながる。これは先進事例になりうると考える。

③ 幼稚園・こども園との連携について

英語の歌を歌い、リズムで英語を楽しむことが望ましい。

教える側にも、小・中学校の教える側同様の環境を整える。

④ 小学校英語から、中学校英語の連携について

小学校は、楽しく英語の歌 ABC を歌うなど、発音より、大きい声で言えたらよしとする。大きい声で言えたら、教える側が、「good job!」と声をかける。

中学校は、文法の正確さで英語を嫌うようになることから、受験英語と、コミュニケーション英語のクラスを分けて行うことが望ましい。受験英語はルールとして伝える。コミュニケーションのクラスは、小学校から続く、大きな声で言えたらよしとするクラスとすると、英語を嫌いにならない。

中学校の聞き取りには、TED の動画を使用するとよいと考える。

⑤ 子育て支援としての英語教育

～英語教育を東かがわ市のPRとして押し出すことについて～

②の中にも、書かれていることに加え、家でも、子供と一緒に歌を歌うことが望ましい。子育てを英語で一緒にやる。英語を一緒に学ぶといったことが望ましい。

「英語が話せてすごい」ではなく、「英語ができたなら世界で遊べる」といった、自己愛に根差した自信を育むことが、子供にとっても、保護者にとっても大切であるとする。

意見を言うのが英語。沈黙は金なりが日本語。世界は大海原。プールではない。意見のない日本人になると損をしてしまう。話せる英語、使える英語を身につけるのに、6年はかからない。

「自己愛教育に根差した、英語教育！」に取り組むことで、日本の常識、海外の非常識を学び、ダイバーシティ、世界平和の考え方も身につくと考える。

⑥ 英語教育の先進自治体について

⑤でも述べたが、グローバルイングリッシュや、ワールドイングリッシュといったことに、積極的に取り組むことが、東かがわ市のPRにつながる。

東かがわ市は、「自己愛教育に根差した、英語教育！」で英語教育の先進自治体になりうると考える。

⑦ 海外経験について

できればひとつの訪問を訪問で終わらせない。

子供たちに、日本で調べさせ、計画させて、実行して、間違わせる。

例えば、ひなまつりなどをプレゼンテーションすることによって、グローバルな人材に成長させていける。

最後に、世界で一番行われている教育は、失敗させることである。とのことであつた。上記、⑦つを積極的に推進することは、東かがわ市のPRになると考える。

そのため、早急に、教える側に、小熊氏のグローバルジュスチャーの研修を開催できるよう求めたい。そして、子供たちが、英語を楽しみ、意見が言えることがお互いを高めあえると感じられる自己愛に根差した、英語教育を推進するため、可能な限り、保護者の方々にも小熊氏の講演に参加できる機会をもてるよう努めたい。子供たちが小熊氏の授業を受ける姿を、教える側や、保護者に見てもらえれば、英語教育は大きく前進すると考える。

